

2017年3月期決算 決算説明会Q&A要旨

日本水産株式会社
経営企画IR部
経営企画IR課

- Q. 南米養殖事業の2017年度計画作成の背景となった市況の見通しや自助努力の内容などについて教えて頂きたい。
- A. 上期での販売価格は高値で推移することを想定しているが、下期はある程度下がるリスクを織り込んでいる。引き続きプロダクトミックスとマーケットミックスを考えながら、付加価値品の比率を高めていく。また、前年度比較で水揚げ数量が5%程度増加することも念頭に置いている。
- Q. ファインケミカル事業の2017年度計画での通販事業への投資について、広告宣伝費の費用対効果の見通しや、これまで実施していなかった理由について教えて頂きたい。
- A. 「単品リピート通販」戦略として50億円程度の売上高を目指し広告投資を行うことで、既存顧客からの収益拡大を狙っていく。これまでは実損益での赤字を避けていたが、2017年度計画ではEPAの普及と認知拡大に努めていくために、一時的な赤字というリスクを負うことを計画している。
- Q. 中計達成に向けて、現在残っている課題や充分に進捗できなかったことについて、今後どのように次期社長に託していきたいか、教えて頂きたい。
- A. 海外販売比率の向上やファインケミカル事業の進捗の遅れなどがあったが、次期中計に向けて、今まで取り組んできた養殖の高度化を中心とした水産事業の変革や財務戦略などをさらに強化していきたい。
- Q. ファインケミカル事業の今後の販売展開や需要動向などについて教えて頂きたい。
- A. 鹿島新医薬品工場の試験操業などの認可などを行いつつ、海外販売に向けた準備を行っている。なるべく早い時期に実施したいが、まだ確定していないことも多いため、海外販売に向けた協働や具体的な方針などについては次期中計に織り込む予定であり、決まり次第発表したい。

Q. 2017 年度で計画している特別利益（有価証券の売却）の内容について教えて頂きたい。

A. 相手側からの要請による株式の売却であり、上期中に実現が見込めることから 2017 年度の計画に織り込んでいる。

Q. 現在の食品事業の加工食品の収益性についての見解を教えて欲しい。

A. 冷凍食品や練り製品など商品によって利益率がそれぞれ異なるが、工場の再編による稼働率や人的生産性の向上などの施策によって、食品事業全体の営業利益率を高めていきたい。

Q. 今後の株主還元についての考え方を教えて欲しい。

A. 今までは財務の健全化を進めながらの株主還元であった。今後も引き続き財務基盤を固めながら、株主還元を実施することになると考えている。

以上